

令和8年1月26日

保護者様

北九州市立足立小学校
校長 鈴木 大聖

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考・判断・表現力の「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら話の内容を捉える」区分で全国平均を上回っていました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の区分で課題が見られました。
算数	知識及び技能の「測定」、思考・判断・表現力の「変化と関係」の区分では、全国平均を上回っていました。「データの活用」「図形」の区分で課題が見られました。
理科	思考・判断・表現力の「地球」柱とする領域の区分では、全国平均を上回っていました。「エネルギー」「生命」の区分で課題が見られました。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・ICT機器に慣れ親しんでいる子どもが多く、100%の子どもが「タブレットは、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と答えています。 ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」や「算数の授業の内容がよく分かる」と答える子どもが8割を占めており、算数科を中心に、全学級、複数による指導体制を整えている成果と考えられます。 ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」と答えた子どもが100%を占めており、本校で重点化して取り組んでいる人権教育や異学年交流による「たてわり活動」での経験や日常的に積み重ねてきている「友達の良さを見つけるいいところ見つけ」の取組の成果と考えられます。 ・「学校の授業時間以外の一日あたりの学習時間」の平均が80分間と全国平均を若干上回りました。低学年の頃から毎日、宿題に日常的に取り組む流れができていること、量ではなく学びの工夫を価値づけていくような自主学習に取り組んでいることが成果と考えられます。 ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた子どもが全国平均を若干下回っています。単級の中で、相談先や居場所が限定され、人間関係が固定化されやすいことが原因と考えられます。今後も、担任だけでなく、加配教員や養護教諭、専科教員をはじめ、全職員が一丸となって、一人一人の子どもの表情や行動の変化に細かく目を向け、どの子どもとも「つながること」「話してよかった」と感じてもらえるような雰囲気をつくってまいります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○確かな学力と集中して学ぶ姿を育てるために、今後も継続して毎朝15分間の計算力や言語力をつける補充学習を行います。また、継続的な基礎学力の定着につなげていくために、目標をもって努力する態度や達成感を味わえるような計算コンクールや自主学習コンクールを積極的に取り入れていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○毎朝、安心して学校に送り出してくれる保護者の方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、朝、登校が遅れてしまう児童には、規則正しい生活習慣の大切さを伝えるとともに、どんな時でも保護者の声に丁寧に耳を傾けられるような相談しやすい体制づくりを進めていきます。
○学校だよりやほけんだより、保健指導や食育指導を通して、健康に気を付けたり生活リズムを整えたりすることの大切さを啓発していきます。